



東日本大震災から8年半。
原発事故という未知の体験をした福島県にあって
地域復興をリードしてきた東邦銀行。
「小さな親切」運動福島県本部代表としても活躍される同行の北村頭取に
福島県の今と、今後の意気込みを聞きました。

未曾有の震災の中、 いち早く 地域支援に向かった 行員たち

梅森徹理事（以下梅森）…北村頭取
には、いつも全国地方銀行協会の運
営に、ご指導・ご協力いただき、あ
りがとうございます。今日は「小さ
な親切」運動の福島県本部代表とし
て、お話を伺います。どうぞ、
よろしく願います。

北村清士頭取（以下北村）…こちらこ
そ、よろしく願います。昨年
年は「小さな親切」運動大賞を頂戴

しまして、あらためて感謝申し上げ
ます。復興中の福島を支えようとし
ている中で、励みになりました。

梅森…東日本大震災からの復興は、
引き続き国民的課題です。また、東
邦銀行さんにとっても、復興支援は
今なお重要な経営課題だと思います。
北村…ええ。過去には、バブル崩壊
後の不良債権処理やリーマンショッ
クなどもありましたが、あの震災は
当行にとっても、比べようのないほ
どのショックでした。沿岸部を中
心に大きな被害が出て、私どもの永
年のお客様も苦境に陥りましたので、
サポートしなければという思いで

やってきた8年半でした。
梅森…震災当日、頭取ご自
身はどうされていたのですか。

北村…地元の大学との協定式の帰り
で車に乗っていたのですが、突然運
転手が「もう運転できません」と
言ったのです。地面が大きく揺れ、
道路わきの塀なども倒れ始めて、す
ぐに、ただごとではないとわかりま
した。

真つ先に考えたのは、行員や家族
の安否で、翌日には全支店と専用回
線で結んだテレビ会議を開いて、情
報の収集にあたりました。

梅森…さぞやご心配だったと思いま

県本部代表に聞く

東京オリンピック。 パラリンピックで 福島県の安全、安心を 世界へ発信！

す。行員にはどんなことを話されま
したか。

北村…まずは命が最優先というこ
と。家族を含め、安全を確保してか
ら、業務にあたつて欲しいと伝えま
した。最大で29の支店が臨時休業を
余儀なくされる状況でしたが、営業
できた支店では、お客様にタオルを
渡したり、お客様からの問い合わせ
に応えたり、ある支店では泊まるこ
ろがない方を受け入れ、一緒に朝
を迎えるなど、その場その場の判断
で働いてくれています。本当に頼もし
く思いましたよ。

梅森…緊急時の現金払い戻しも、円
滑に行われたと伺っています。

北村…ええ。通帳も印鑑も身分証
明書も不問で、払い戻しに応じまし
た。最後は預金残高以上の払い戻し
を行ったお客様についても、全てき
ちんと返つてきて、感動しましたよ。

行員たちもよくやってくれて、お
客様に感謝の手紙をたくさんいただ

きました。

梅森…日頃の「小さな親切」運動が
少しはお役に立ったのでしょうか。

北村…はい、そう思いますよ。私も
実際に見ましたが、行員たちはお客
様に寄り添って丁寧に話を聞いてい
ました。そうした中で身元の確認も
行っていたんですね。やはり普段か
ら、人の状況を見やって、行動に移
すという訓練ができていたのではな
いでしょうか。思っているよりも、実
際に行動でできませんからね。梅森さ
んならすぐでできるでしょうが。

梅森…いいえ。私が「小さな親
切」運動に携わっているという話を
しますと「大きなお世話」運動です
か？と混ぜて返されることもありま
して、全国で頑張っている人たちが
想うとむつとすることもあったので
す。でも最近は、大きなお世話を怖
れていたら、小さな親切はできない
と考えるようになりました。そうし
たら、席譲りでも声がけでも、以前



東邦銀行がまとめた東日本大震災関連の冊子。当時の現場の様子や同行の対応と課題などがまとめられ、震災対応資料としても貴重な内容となっている。

よりスムーズにできるようになった
と思います。

北村…いい話ですね。やはり気の持
ちようというのは大きいですね。

子どもたちが 自慢のできる故郷、 福島県を取り戻す

梅森…次に、いま日本で話題になっ
ている「働き方改革」への取り組み
について、お話しいただければと思
います。

北村…まあ、金融業という
のは反省すべき点も多い業
界で、そのひとつが夜遅く
まで働くということでした。
それでフレックスタイム制
を導入しまして、今、朝の
6時30分から働けるようにな
っています。そのマネジ
メントは各所属長に任せていますが、
かなり円滑に回っていると思います。



「小さな親切」運動福島県本部代表

北村清士

きた むら せい し



公益社団法人「小さな親切」運動本部理事

梅森徹

うめ もり とおる

東京オリンピック・パラリンピックで 福島県の安全、安心を 世界へ発信！



一つに、時間外勤務の経費が半減しました。その経費は、行員の子どものための保育施設に回すなどしています。

梅森 保育施設もお持ちなんですね。北村…ええ。県内に3ヶ所あります。子育て支援の一環ですね。改革

によって、行員たちは早く帰れるようになりましたので、家族サービスや自己啓発、趣味などに時間を活かして、好循環になっています。現場からの苦情なども減りましたよ。

梅森…素晴らしい成功例ですね。少子化の進行する日本では、子育て支援はどの企業でも課題だと思います。

北村…はい。地方都市ではどこも人口の流出が悩みの種で、それは福島も同じです。特に、原発事故があったから誤解もあって、子どもたちの一部は故郷に自信を持てなくなっています。子どもたちが自信を持てる故郷をつくるのが、企業を含めた

地元の大人たちの使命ではないですか。うちは地域の企業と市民をサポートしながら、それを実現したいと思っています。

ところで、梅森さんお酒は好きですか。

梅森…はい、大好きです。

北村…それは良かった。福島県は全日本一をとり続けているくらい酒どころでもあります。酒の肴もうまいものが多いですよ。福島県産品の通販事業も行っていますが、好評です。

そう。地方銀行協会さんの近くに「日本橋ふくしま館」があるので、今度寄ってみてください。

梅森…実は「喜多方ラーメン」も好きなので、よく利用しています。

北村…それなら話が早い。今、福島県ではそうした伝統的な産業に加えて、新たな産業が生まれようとしています。例えば、「クリーンエネルギー」。太陽光、風力、水力発電ですね。それから「ロボット産業」。これは原発の廃炉作業からのニーズです。人は入れませんから。東日本大震災は大きな負の遺産を残しましたが、そこから始まる可能性もあります。

最近では航空宇宙産業にも力を入れています。それらをもっと伸ばす

う、日本の心プロジェクト」と題しまして、全国の道府県本部・支部と協力して活動をスタートさせました。「あいさつ運動」もその一環ですが、やはり人間関係においては、感謝の気持ちを忘れないこと、そして、言葉で「ありがとう」とか「おつかれさま」「ご苦労さま」と表すことが大切だと思います。あいさつ運動はその基本づくりですね。

北村…なるほど。長い間運動を続ける場合、ときどき原点に戻ることも必要ですからね。1964（昭和39）年の東京オリンピックの前年にこの運動が始まりましたが、今回は原点に帰るいい機会でもあります。

とともに、すでに安全になっている農産品などへの誤解を解くべく情報を発信していくのも、私たちの使命だと思っています。そして、子どもたちが胸を張って自慢のできる県にしていきたいですね。

聖火リレーを 「小さな親切」運動の 原点に戻る機会に

梅森…2020年の東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーのスタートが、福島県になったこともはずみになるのではないですか。

北村…ええ、復興オリンピックとも言われていますから、復興と福島の安全性を全世界にアピールする機会にしたいですね。サッカーの本拠地であるJヴィレッジも、長らく原発事故対応の拠点になっていましたが、昨年トレーニング施設としての活動を再開できましたし、そこから聖火リレーが始まるのは象徴的なことだと思います。

運動本部もプロジェクトを立ち上げましたね。

梅森…はい。「伝えよ



梅森理事のお気に入り「喜多方ラーメン」

私たちも大きな風呂敷を広げるのではなく、地域貢献をされている個人や団体などをサポートする形で地道に活動をしていきたいと思っています。お互いに頑張りましょう。

梅森…はい。力強いお言葉に感謝いたします。本日はお忙しいところをありがとうございました。



東邦銀行のポップなロゴマーク。30年前としてはかなり斬新なデザインで、当時担当だった北村代表が企画し、採用に至った。

福島県の 「小さな親切」 運動

福島県本部は発足以来、環境美化や県内の思いやりの心を育てる活動に尽力しています。
主な取り組みをご紹介します。

【発足】1976（昭和51）年6月29日

「小さな親切」実行章の推薦と贈呈

子どもたちの思いやりの心を育てるため、県内の小学生を中心に実行章を贈呈。

日本列島クリーン大作戦

市町村主催の清掃活動に参加する他、今年度は、5月30日（ごみゼロデー）に福島市で約500名の行員が清掃活動を実施。



エコキャップ収集活動

2009（平成21）年、広く県内に協力を呼びかけスタート。現在では、多くの学校が参加する全県的な取り組みとなっている。

日本列島コスモス作戦

花の栽培を通じて、やさしい心や自然を大切にすること、また運動PRのため学校へ花の種子を寄贈。

あいさつで、みんなつながるトモダチ作戦

県内の学校へあいさつ運動推進グッズ（のぼり、たすき等）を寄贈。

各種寄附・寄贈活動

車椅子寄贈運動

社会福祉協議会を通じ、毎年車椅子を寄贈。

「パンダハウスを育てる会」への寄附

病と闘う子どもと家族のサポート施設「パンダハウス」へ家具や備品等を寄贈。